

都市再生整備計画 事後評価シート
松川地区

平成24年3月

長野県松川町

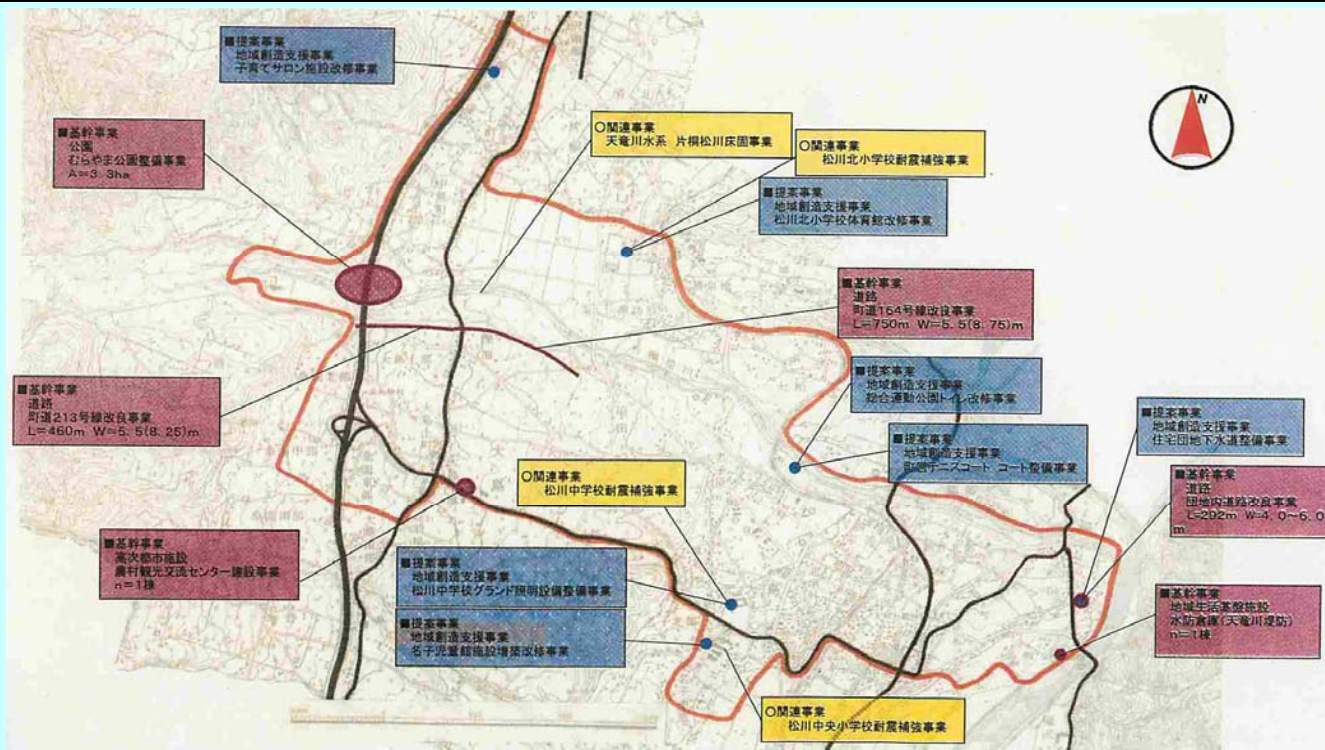
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	松川町		地区名	松川地区		面積	780			
交付期間	平成19年度～23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	567.7百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路(213号線、164号線、公園(むらやま公園)、地域生活基盤施設(水防倉庫)									
			提案事業	地域創造支援事業(松川北小学校体育館改修)									
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			提案事業	地域創造支援事業(松川中学校校舎改修)		平成22年に計画変更して削除し、関連事業(耐震補強)により実施した。			影響なし				
	新たに追加した事業		基幹事業	(1)道路(団地内道路) (2)高次都市施設(農村観光交流センター)		(1)定住しなくなる基盤整備として低廉な住宅地の供給が必要のため、平成20年に追加 (2)くだもの観光の拠点となる施設整備が必要のため、平成20年に計画変更して追加			(1)住宅地分譲に関連する事業(団地内道路)の追加変更により、指標4の数値目標を追加した。 (2)地域来訪台数に関連するが、数値目標は据えおく。				
提案事業			①地域創造支援事業(子育てサロン改修) ②地域創造支援事業(住宅団地内下水道整備) ③地域創造支援事業(総合運動公園トイレ改修、町営テニスコート整備、中学校グラウンド照明施設整備) ④地域創造支援事業(名子児童館施設増築改修)		①定住しなくなる基盤整備として低廉な住宅地の供給が必要のため、平成19年に追加 ②定住しなくなる基盤整備として低廉な住宅地の供給が必要のため、平成20年に追加 ③定住しなくなる基盤整備として低廉な住宅地の供給が必要のため、平成21年に追加 ④定住しなくなる基盤整備として低廉な住宅地の供給が必要のため、平成22年に追加			①影響を与える指標は無く、数値目標の設定を据えおく。 ②住宅地分譲に関連する事業(団地内下水道)の追加変更により、指標4の数値目標を追加した。 ③指標4住宅棟数に関係するが、数値目標は据えおく。 ④指標4住宅棟数に関係するが、数値目標は据えおく。					
交付期間の変更		当初	平成19年度～23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	地域来訪台数	台	1,682,235	H17	1,699,000	H23	1,850,057	1,861,483	○	ありなし	農村観光交流センターの開設等により、地域来訪台数が増えた。	H25年4月頃
	指標2	清流苑入湯者数	人	134,203	H17	135,000	H23	143,556	142,984	○	ありなし	松川ICから清流苑への道路整備等により、清流苑入湯者数が増えた。	H25年4月頃
	指標3	自主防災組織数	団体	37	H17	82	H23	71	82	○	ありなし	防災倉庫整備に加え防災研修の積極的開催で、自主防災組織の設立が進んだ。	H24年4月頃
	指標4	住宅棟数	棟	5,001	H18	5,130	H23	5,126	5,140	○	ありなし	住宅地の分譲のほか子育て支援の充実により、住宅棟数の増につながった。	H24年7月頃
	指標5										ありなし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	地域来訪台数 中日本高速(株)より提供される松川インターチェンジ利用台数によるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● モニタリング同様に毎年度の松川インターチェンジ利用台数を中日本高速(株)提供資料により確認する。					
	住民参加プロセス	農村観光交流センターの愛称募集		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●					
	持続的なまちづくり体制の構築	住民参加による農村観光交流センター運営委員会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 町は施設の維持管理を中心とし、観光協会や農業者の主体的な活動を推進する。					

様式2-2 地区の概要

松川地区(長野県松川町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
テーマ「水と緑と太陽のまち まつかわ」 目標1: 地域の基幹産業となっている、観光や農業分野において、新たな活性化方策に取り組み、魅力と活力ある産業振興を進めます。 目標2: 町民生活が安全で快適なものとなるように、災害時の非難、防災体制を整備するほか、学校教育・生涯学習・子育て支援環境の向上により未来を担う若者が定住したくなるようなまちづくりを進めます。	地域来訪台数	単位: 台	1,682,235 H17	1,699,000 H23	1,861,483 H23
	清流苑入湯者数	単位: 人	134,203 H17	135,000 H23	142,984 H23
	自主防災組織数	単位: 団体	37 H17	82 H23	82 H23
	住宅棟数	単位: 棟	5,001 H18	5,001 H23	5,140 H23



まちの課題の変化

- ・町営温泉宿泊施設清流苑に近接するむらやま公園の整備により、観光ゾーンとしての魅力向上が図られ、観光人口の増が図られた。また、合わせて大型遊具を整備したことにより、地域住民が日頃から家族で楽しめる公園となった。
- ・町道164号線、213号線の整備により、松川ICや幹線道路へのアクセスが向上し、地域来訪台数や清流苑入湯者数の増へ寄与した。
- ・農村観光交流センターの完成により、南信州の北の玄関口としての観光案内を充実させ、地域来訪台数が増加した。
- ・宮ヶ瀬住宅地団地分譲に際し、団地内道路及び下水道整備を本事業により整備し、低廉な価格での分譲を実現した。また、子育て教育施設整備の推進により、住宅棟数の増につながった。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・観光施設をつなぐ主要幹線道路は概ね整備されたので、町の観光拠点であるリフレッシュタウンまつかわの里を引き続き整備推進し、観光産業の振興を図る。
- ・農村観光交流センターの完成により、拠点施設は整備されたので、今後はいかに活用していくかが課題となる。・農村観光交流センターにおけるイベントの開催する。
- ・子育て教育施設整備を引き続き推進し、子育て支援の充実を図る。
- ・住居エリアにおける豪雨時の雨水排水対策を進める。
- ・老朽化した中央公民館の耐震補強を図り、施設の充実を図るため、地域交流センターを建設する。
- ・耐震補強が必要な2保育園を統合し、新たな保育園の整備を進める。
- ・通学路における歩道未整備や舗装路面の老朽化対策として、道路改良等を進める。
- ・既存防犯灯のLED化を図り、明るく安全な通学路を確保する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		【指標4】なし	【指標4】町内(概要調書)の住宅棟数(木造:専用住宅、共同住宅・寄宿舍、併用住宅、農家住宅、及び木造住宅以外:住宅・アパート)を追加	目標2の「定住しなくなるようなまちづくり」に対応した指標を追加するため。
C. 目標値		●			
D. その他(計画区域の拡大)	●		計画区域:700ha	計画区域:780ha	当初の事業区域に加えて、子育て支援施設である子育て支援センター等を含めることにより、未来を担う若者が定住しなくなるまちづくりを実現するため。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	213号線	150	L=485m W=6.0m	90	L=460m W=5.5m	事業精査による事業費、延長、幅員の減	数値目標2清流苑入湯者数に関係するが、数値目標は据えおく。		●
道路	164号線	240	L=750m W=6.0m	200	L=750m W=5.5m	事業精査による事業費、幅員の減	数値目標2清流苑入湯者数に関係するが、数値目標は据えおく。		●
道路	団地内道路	-	-	14	L=292m W=4.0~6.0m	定住したくなる基盤整備として低廉な住宅地の供給が必要なため、平成20年に追加	住宅地分譲に関連する事業(団地内道路)の追加変更により、指標4の数値目標を追加した。	●	
公園	むらやま公園	116	A=3.3ha	113.2	A=3.3ha	事業精査による事業費の減	数値目標2清流苑入湯者数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	水防倉庫(天竜川堤防)	2	N=1棟	2.1	N=1棟	事業精査による事業費の増	数値目標3自主防災組織数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	農村観光交流センター	-	-	71	N=1棟 307㎡	くだもの観光の拠点となる施設整備が必要なため、平成20年に計画変更して追加	指標1地域来訪台数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	松川中学校校舎改修	12	ベランダ改修 A=506㎡	-	-	平成22年に計画変更して削除し、 関連事業(耐震補強)により実施した。	影響なし	●	
	松川北小学校体育館改修	10	屋根改修 N=1棟	7.5	屋根改修 N=1棟	事業精査による事業費の減	指標3自主防災組織数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
	子育てサロン施設改修	-	-	9	屋根改修ほか N=1棟	定住したくなる基盤整備として低廉 な住宅地の供給が必要なため、平成 19年に追加	影響を与える指標は無く、数値目標の設定を据えおく。	●	
	住宅団地内下水道整備	-	-	6.3	下水管路 L=126.6m	定住したくなる基盤整備として低廉 な住宅地の供給が必要なため、平成 20年に追加	住宅地分譲に関連する事業(団地内下水道)の追加変更により、 指標4の数値目標を追加した。	●	
	総合運動公園トイレ改修	-	-	15.4	水洗化ほか N=1棟	定住したくなる基盤整備として低廉 な住宅地の供給が必要なため、平成 21年に追加	指標4住宅棟数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
	町営テニスコート整備	-	-	14.2	砂入人工芝 N=4面	定住したくなる基盤整備として低廉 な住宅地の供給が必要なため、平成 21年に追加	指標4住宅棟数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
	松川中学校グランド照明施設整備	-	-	4	水銀灯 N=2基	定住したくなる基盤整備として低廉 な住宅地の供給が必要なため、平成 21年に追加	指標4住宅棟数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
	名子児童館施設増築改修	-	-	21	児童館増改築 N=1棟138.25㎡	定住したくなる基盤整備として低廉 な住宅地の供給が必要なため、平成 22年に追加	指標4住宅棟数に関係するが、数値目標は据えおく。	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
天竜川水系片桐松川床固事業		松川町上片桐	12,400	12,400	平成11～18年度	平成11～18年度	平成18年度に竣工し、隣接する むらやま公園と一体的に活用 されている。		
松川中学校耐震補強事業		松川町元大島	137	137	平成19～21年度	平成19～21年度	平成21年度に竣工し、グランド と一体的に活用されている。		
松川中央小学校耐震補強事業		松川町元大島	323	323	平成21～23年度	平成21～23年度	平成23年度に竣工し、近接する 名子児童館と連携し活用されて いる。		
松川北小学校耐震補強事業		松川町上片桐	165	165	平成21～22年度	平成21～22年度	平成21年度に竣工し、体育館 と一体的に活用されている。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	地域来訪台数	台	中日本高速道路(株)から提供される松川IC利用台数集計結果により平成18年度から22年度までの傾向から23年度(平成24年3月末時点)を推計する。	1,670,162	H12	1,648,370	H17	1,662,000	H23	モニタリング	H21	1,850,057	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み	●	1,861,483	事後評価		
指標2	清流苑入湯者数	人	町営温泉宿泊施設清流苑が把握している入湯者数集計により平成18年度から22年度までの傾向から23年度(平成24年3月末時点)を推計する。	-	-	125,406	H17	126,000	H23	モニタリング	H20	143,556	モニタリング	○		
										事後評価	確定見込み	●	142,984	事後評価		
指標3	自主防災組織数	団体	総務課において把握している自主防災組織設置数により当該時点(平成24年3月末時点)での実績値とする。	0	H12	31	H17	82	H23	モニタリング	H20	71	モニタリング	△		
										事後評価	確定見込み	●	82	事後評価		
指標4	住宅棟数	棟	固定資産税概要調書における住宅棟数の集積結果により平成18年度から22年度までの傾向から23年度(平成23年1月1日時点)を推計する。	4,818	H13	5,001	H18	5,130	H23	モニタリング	H23	5,126	モニタリング	△		
										事後評価	確定見込み	●	5,140	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	農村観光交流センターの開設に加え、国の経済対策によるETC割引拡充も相まって、モニタリング数値では大きく上回り達成しており、推計からも事後評価は達成が見込まれる。	
指標2	町営温泉宿泊施設清流苑においてのリニューアル(H20客室、H21第2源泉掘削)と、本事業のむらやま公園整備(H20)及び農村観光交流センター開設(H20)を実施したことによる相乗効果が大きく、モニタリング数値では大きく上回り達成しており、推計からも事後評価は達成が見込まれる。	
指標3	災害時の避難防災施設整備を進めるとともに、地域への自主防災出前講座を積極的に行ったことにより、町内全地域での自主防災組織設立につながりつつある。モニタリングでは達成にいたっていないが、進捗状況は順調であり担当課へのヒアリング結果から達成が見込まれる。	
指標4	子育て支援教育環境整備の整備により、子育て教育環境が一段と充実し、宮ヶ瀬住宅地の低廉な宅地分譲(14区画)により、モニタリングでは達成にいたっていないものの、当該数値の推移及び担当課へのヒアリング結果から達成が見込まれる。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地域来訪台数 中日本高速(株)より提供される松川インター チェンジ利用台数によるモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度9月 【実施結果】採用した指標は、中日本高速(株)より毎月数値が整理されているものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	モニタリング同様に毎年度の松川インターチェンジ利用台数を中日本高速(株)提供資料により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
町営温泉宿泊施設清流苑が把握している 入湯者数によるモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度9月 【実施結果】採用した指標は、清流苑において毎月数値が整理されているものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	モニタリング同様に毎年度の清流苑入湯者数を清流苑把握資料により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
農村観光交流センターの愛称募集	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成21年1月から2月 【実施結果】農村観光交流センター建設に際し、住民の皆さんから愛称を募集し、命名することにより、センターに対する愛着が生まれ、利用が促進された。	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
住民参加による農村観光交流センター運 営委員会	予定どおり実施した	● 維持管理は町において行うが、セン ターの運営方針や事業内容、利用促 進に関することについては、観光協 会、農業者等の参加による運営委員 会が担う。	松川町農村観光交流センター運営委 員会	町は施設の維持管理を中心とし、観光協会 や農業者の主体的な活動を推進する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な会議(都市再生整備計画事後評価検討会議)	関係各課担当職員(総務課、建設水道課、産業観光課、こども課、生涯学習課)	第1回平成23年10月14日 第2回平成24年2月20日	総務課企画財政係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4		
指標名		地域来訪台数		清流苑入湯者数		自主防災組織設置数		住宅棟数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	
基幹事業	道路(213号線)	○	農村観光交流センターの開設により観光案内機能が向上した。松川インターチェンジから清流苑へのアクセス道路として213号線及び164号線が整備され、清流苑利用者の利便性向上に寄与した。また、近接するむらやま公園の整備により観光施設としての魅力が向上した。その結果、地域来訪台数が増え、地域の基幹産業であるくだもの観光の活性化につながりつつある。	○	農村観光交流センターの開設により観光案内機能が向上した。松川インターチェンジから清流苑へのアクセス道路として213号線及び164号線が整備され、清流苑利用者の利便性向上に寄与した。また、近接するむらやま公園の整備により観光施設としての魅力が向上した。その結果、清流苑入湯者数が増え、くだもの観光への好影響が与えられた。	—	防災倉庫の設置に合わせ、自主防災組織の担い手となる自治会を対象とした防災研修を積極的に開催し、自主防災組織の設立が進み、災害時の避難防災体制の強化が推進された。	—	宮ヶ瀬住宅地団地分譲に際し、団地内道路及び下水道整備を本事業により整備し、低廉な価格での分譲を実現した。また、子育て教育施設整備の推進により、住宅棟数の増となり、定住対策の成果が見えつつある。	
	道路(164号線)	○		—		—		—		
	道路(団地内道路)	—		—		—		—		—
	公園(むらやま公園)	○		—		—		—		—
	地域生活基盤施設(防災倉庫)	—		—		○		—		—
	高次都市施設(農村観光交流センター)	○		—		—		—		—
提案事業	松川北小学校体育館改修	—		—		○		○		
	子育てサロン施設改修	—		—		—		—		
	住宅団地下水道整備	—		—		—		—		
	総合運動公園トイレ改修	—		—		—		—		
	町営テニスコート改修	—		—		—		—		
	松川中学校グランド照明施設整備	—		—		—		—		
関連事業	名子児童館増築改修	—		—		—		○		
	天竜川水系片桐松川床固事業	—		○		○		—		
	松川中学校耐震補強事業	—		—		○		○		
	松川中央小学校耐震補強事業	—		—		○		○		
松川北小学校耐震補強事業	—	—	—	○	○					

※指標改善への貢献度
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
今後の活用	今後も農村観光交流センターにおけるソフト事業を展開させ、来訪者数の増を図る。	町営温泉宿泊施設清流苑の魅力向上を図ることにより、利用者増を図る。	今後も、公共施設及び公共的施設の耐震補強等を促進し、安全なまちづくりを推進する。	引き続き、子育て教育関連施設整備による支援を続ける。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標○			指標○			指標○			指標○		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業												
												
												
												
提案事業												
												
												
												
関連事業												
												

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な会議(都市再生整備計画事後評価検討会議)	関係各課担当職員(総務課、建設水道課、産業観光課、こども課、生涯学習課)	第1回平成23年10月14日 第2回平成24年2月20日	総務課企画財政係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
清流苑周辺整備とそこから松川ICや幹線道路をつなぐ道路整備	町道164号線、213号線の整備により、松川ICや幹線道路へのアクセスが向上し、地域来訪台数や清流苑入湯者数の増へ寄与した。また、むらやま公園の整備により、観光ゾーンとしての魅力向上が図られ、観光人口の増が図られた。	観光拠点施設である清流苑周辺(リフレッシュタウンまつかわの里)の老朽化等整備を要する施設が存在する。	
南信州の玄関口(松川IC)という地理的条件を活かした観光振興	農村観光交流センターの完成により、南信州の北の玄関口としての観光案内を充実させ、地域来訪台数が増加した。	整備された農村観光交流センターみらいにおける事業展開が今後の課題である。	
学校教育、生涯学習、子育て支援施設の整備	学校教育(松川きた小学校体育館、松川中学校グラウンド照明)、生涯学習(総合運動公園トイレ、町営テニスコート)、子育て支援施設(子育てサロン、名子児童館)など老朽化する施設に整備機能向上が図られた。	老朽化した中央公民館の耐震補強、通学路の道路改良、学校施設の改修、公園等の遊具整備などを要する施設が存在している。また、耐震補強が必要な保育所2施設について統合保育園として整備が課題となっている。	
安全で快適な住環境の整備	防災体制の充実として防災倉庫の整備を行い、自主防災組織が組織化された。また、宮ヶ瀬住宅地団地内道路及び下水道整備を整備し、低廉な価格での分譲を実現し、住宅棟数の増につながった。	住居エリアにおける豪雨時の雨水排水対策未整備区域の整備が課題となっている。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	農村観光交流センターを拠点とする観光産業の振興	・農村観光交流センターの完成により、拠点施設は整備されたので、今後はいかに活用していくかが課題となる。	・農村観光交流センターにおけるイベントの開催

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	リフレッシュタウンまつかわの里施設の魅力向上による相乗効果	・観光施設をつなぐ主要幹線道路は概ね整備されたので、町の観光拠点であるリフレッシュタウンまつかわの里を引き続き整備推進し、観光産業の振興を図る。	・リフレッシュタウンまつかわの里の改修
	生涯学習の拠点となる地域交流センターの整備	・老朽化した中央公民館の耐震補強を図り、施設の充実を図るため、地域交流センターを建設する。	・地域交流センター(中央公民館)の改築
	統合保育園の整備と通学路の安全確保	・耐震補強が必要な2保育園を統合し、新たな保育園の整備を進める。 ・通学路における歩道未整備や舗装路面の老朽化対策として、道路改良等を進める。 ・既存防犯灯のLED化を図り、明るく安全な通学路を確保する。	・統合保育園の建設 ・通学路の道路改良等 ・防犯灯の整備
	子育て・教育及び住環境の更なる充実	・子育て教育施設整備を引き続き推進し、子育て支援の充実を図る。 ・住居エリアにおける豪雨時の雨水排水対策を進める。	・学校施設の改修 ・公園等の遊具整備 ・排水路の整備

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地域来訪台数	台	1,648,370	H17	1,662,000	H23	確定 見込み ●	1,861,483	○	あり なし	→	平成25年4月	松川インターチェンジ利用台数の集計結果(平成24年4月から25年3月)を用いて確定値を求める。	
指標2	清流苑入湯者数	人	125,406	H17	126,000	H23	確定 見込み ●	142,984	○	あり なし	→	平成25年4月	町営温泉施設清流苑の入湯者数の集計結果(平成24年4月から25年3月)を用いて確定値を求める。	
指標3	自主防災組織数	団体	31	H17	82	H23	確定 見込み ●	82	○	あり なし	→	平成24年4月	自主防災組織の設置数(平成24年4月)を用いて確定値を求める。	
指標4	住宅棟数	棟	5,001	H18	5,130	H23	確定 見込み ●	5,140	○	あり なし	→	平成24年7月	固定資産税概要調書における住宅棟数の平成24年度集計を用いて確定値を求める。	
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の 数値指標1				H			確定 見込み				→			
その他の 数値指標2				H			確定 見込み				→			
その他の 数値指標3				H			確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、交付期間中に供用した事業の効果を確認することができた。	毎年データが算出できる指標を選定するとモニタリングが容易となる。
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		計画策定時において、事後評価方法を認識して、指標を設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	清流苑入湯者数について、従前値の基準時点や補足方法が明確に記録されていなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	農村観光交流センター建設に際し、住民の皆さんから愛称を募集し、命名することにより、センターに対する愛着が生まれた。	住民参加は地域住民が一体となったまちづくりを行うための有効な手段である。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後のまちづくり交付金の活用予定
本計画の次期計画として、松川地区(平成24年度から平成28年度)を計画している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページへ掲載	平成23年11月8日から11月30日	平成23年11月8日から11月30日	FAX、電子メール、直接提出	総務課企画財政係
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	辻琢也 委員 一橋大学大学院法学研究科教授	平成24年3月9日	総務課企画財政係	松川町都市再生整備計画評価委員会設置要綱 (平成24年要綱)	
その他の委員	塩崎いずみ 委員 (松川町主任児童委員) 知久 治 委員 (松川町認定農業者連絡会副会長) 和地雅二 委員 (あらい商店街連合会)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・農業に関する指標があってもよかったのではないかという意見があった。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・幅広く多様な意見を取り入れて相乗効果を発揮されているという意見があった。一方でETC割引など他の要因による効果も達成要因の一つではないかという意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、分かりやすい方法で公表されたことが確認された。
	その他	・農村観光交流センターは、訪問者から分かり難いという指摘があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは、妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・農村観光交流センターイベント支援について、やる気のある人材への幅広く支援してもらいたいとの意見があった。 ・10年20年後を見据えた時に今後5年間にやらなければならないものが網羅されているかという点に留意する必要があるという意見があった。 ・リニア中央新幹線が開通したときに向けた、それにより経済が活性化するようなソフト事業があった方がよいのではないかという意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくりは妥当であると認められた。
その他		・特になし

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--